

2017～2018 年度 目録委員会報告

2026 年 9 月 1 日

日本図書館協会目録委員会

*2017～2018 年度報告は『日本目録規則 2018 年版』掲載の「目録委員会報告」に含まれているが、冊子体入稿段階までの記述となっている。本文書はそれを元に、2018 年度末までの事項を追加するとともに、当該年度の独立した記録とするため若干の字句修正を行ったものである。

2017～2018 年度目録委員会は、前期の陣容を維持して『日本目録規則 2018 年版』（NCR2018 年版）刊行に向けた大詰めの作業にあたることとした。ただし、2018 年度に入り、津田深雪委員（NDL）に代わって村上一恵委員（NDL）が就任した。

2017 年 5 月 12 日に JLA を会場として「東京検討集会」を開催し、73 名（委員会関係者を含む）の参加があった。3 月の関西検討集会と同様に委員会から全体条文案（2 月 3 日公開）の概要を報告した後、フロアからの質問・意見をいただいた。両検討集会を通じ、いただいた意見は多岐にわたる貴重なものであった。

7 月末までのパブリック・コメント募集には、11 の個人・団体からコメントを寄せていただいた。それぞれ、重要な問題への提起や多岐にわたる詳細な意見など、極めて有益であった。なかでも、日本図書館研究会情報組織化研究グループからは事前に協力の申し出があり、条文案に逐一コメントする形式の、大変詳細な意見をいただいた。

パブリック・コメントおよび検討集会でいただいた意見を項目別に整理すると約 900 件にのぼった。また、全体条文案上でコメントを付していた検討課題も、相当数あった。予想を上回るコメント数であったことからスケジュールを再検討し、委員会ウェブサイトから 2017 年 10 月に公表した。当初 PDF 版を刊行するとして 2018 年 3 月には「予備版」(PDF) を公開することとし、その後の調整を経て 2018 年 12 月ごろに冊子体刊行と PDF 版（本版）公開を行うというものである。あえて予備版という段階を設けたのは、データ作成機関等による実装の検討が、全体としてある程度固まった版がないと進みにくいと思われたためである。このため、予備版段階で規則の骨格を固め、以後に条文の大幅な組み換えや重要な用語の見直しは行わないことを表明した。

このスケジュールに沿い、予備版公開に向けて、パブリック・コメント等でいただいた意見および全体条文案時点での課題について一つ一つ検討し、また全体的なチェックを行った。この際、重要な検討事項の一つに、規則名称の問題があった。『日本目録規則』の名称を継承することについては、RDA と異なる方針であり、疑問視する意見も寄せられた。しかしながら、本規則は図書館における目録作成を基本的な適用範囲とするもので、NCR1987 年版を継承する内容も多いことなどから、全体条文案時点で「仮題」としていた『日本目録規則 2018 年版』の名称を採用することとした。

2018 年 3 月 28 日、『日本目録規則 2018 年版』（予備版）を PDF 形式で委員会ウェブサイト公開した。PDF ファイルは章単位を原則とし、最も長い第 2 章（表現形の属性）のみ 6 ファイルに分割して公開した。ページレイアウトは全体条文案を踏襲し、各ファイル

にカバーページを付した。

予備版公開に合わせて委員会ウェブサイトを整理し、NCR2018 年版に関する諸情報を「日本目録規則 (NCR) 2018 年版関連情報」のページに集約した。『日本目録規則 2018 年版』(予備版) 公開と今後のスケジュールについて、「パブリック・コメントその他検討課題への対応について」等の関連文書を公開したほか、『現代の図書館』55 巻 4 号掲載の「新しい『日本目録規則』のすがた：何が新しくなるのか」(渡邊隆弘)を転載した。

なお、予備版は、条文本体については全章(刊行時点で保留とする章を除く)を公開したが、付録については一部しか含めることができなかった。2016 年以降、付録についても順次検討を進めていたが、条文本体を優先したため成案化が遅れることとなった。

2018 年度に入り、未完成の付録の作成に注力するとともに、全体の精査を行った。予備版公開時の方針に沿って大幅な修正は行っていないが、語彙のリストの用語の部分的修正や条文をより読みやすくするための修正、表現の統一等を可能な限り行った。また、PDF 版は予備版のレイアウトを踏襲したが、冊子体についてはレイアウトの検討、目次・索引の作成等の作業を行った。

2018 年 7 月に NCR2018 年版の冊子体原稿を入稿し、3 回の校正を経て 12 月初旬に校了、12 月 25 日に納品・刊行を果たした。次いで 2019 年 1 月 7 日に、PDF 版の公開を開始した。刊行に合わせ、予備版と本版との関係、冊子体と PDF 版との関係等を説明した『日本目録規則 2018 年版』刊行・公開について、予備版からの異同個所を一覧した「予備版」以降の変更事項について」の両文書を委員会ウェブサイトに掲載した。なお、冊子体は 3 月に第 2 刷を発行することとなった。刊行後に発見された誤植(6 件)について PDF 版も含めて修正するとともに、「第 1 刷正誤表」をウェブサイトに掲載した。

2019 年 1 月の『図書館雑誌』113 巻 1 号に、目録委員会名義で『日本目録規則 2018 年版』：完成までの道程」を掲載した。

検討集会等で寄せられた意見の中に、エレメントや語彙のリストの用語等について、LOD として扱える機械可読データでの提供を求める声があった。目録委員会でも優先順位の高い課題と認識したが、メタデータレジストリへの登録といった本格的な形はすぐには難しいため、とりあえず簡易な形式でのデータ提供を速やかに行うこととした。実体、属性および関連のエレメント、語彙のリストの用語、関連指示子の総計 1,356 件に ID を付してデータ作成を行い、2019 年 3 月 23 日にウェブサイトに出した「NCR2018 年版エレメント・語彙等データ提供」ページにて XLSX 及び CSV 形式で公開した。

2019 年 2 月 28 日、国立国会図書館の「平成 30 年度書誌調整連絡会議」が「新しい目録作成の動向」をテーマとして開催され、渡邊委員長が NCR2018 年版の完成等について、また村上一恵委員が NDL における適用細則検討について報告した。

2017～2018 年度目録委員会委員

渡邊 隆弘(委員長)(帝塚山学院大学)

木下 直(東京大学)

河野 江津子(慶應義塾大学)

田代 篤史(国立国会図書館)

津田 深雪（～2018.6）（国立国会図書館）
野美山 千絵子（トーハン）
平田 義郎（お茶の水女子大学→JUSTICE）
村上 一恵（2018.6～）（国立国会図書館）
村上 遥（東京外国語大学）
横山 英子（図書館流通センター）